

高速版では【基本情報】を入力するだけで追悼文が作成されます。  
文章は、基本情報に沿ってコンピュータが自動的に選択します。  
作成のたびに違う文章が選択されますので、同じ文章が作成されることはありません。

#### 【生誕から成長】

一九三七年（昭和十二年）、日中戦争が勃発し、出征兵士の武運長久・安泰を祈願した「千人針」が流行するこの年、葬儀太郎は、埼玉県狭山市で産声を上げました。

#### 【晩年】

どんな激務も、子供たちの寝顔が一日の疲れを癒し、明日への糧となりました。心温かな日々の営みの中、太郎は、大切な時間を過ごしました。

この年は、プロ野球のペナントレースがスタートした年でもありました。

人生が旅であるならば、旅の形はどのように変わっても、「えにし」というその宿命だけは永遠のものです。

太郎が物心ついた頃、戦後の急速な復興と民主化が進められます。明日知れぬ「夜と霧」の時代を生き抜き、驚異的な発展を遂げていく中、太郎は、多感な時期を過ごしました。

太郎は、静かに、その命脈尽きる時を迎えました。

やがて日本は、急速に復興が進みます。目覚ましい発展を遂げゆく「戦後の昭和」と共に、太郎は、前を向いて歩き始めます。太郎は、一歩ずつ人生を積み上げていきました。

時の流れに生きる者は、喜怒哀楽で彩られた豊かな日々を送ります。そして自然の摂理に誘われて、命の源へと帰っていくのです。充実した日々を、力強く歩んだ人生でした。

#### 【人生の成熟】

生まれし道のりを訪ねてみれば一九六一年（昭和三十六年）、太郎は、えにしを得て伴侶花子と家庭を築きます。

日々の積み重ねの中で、一郎、次郎が誕生しました。子供の成長を実感する幸せは、親としての充実感に溢れていたことでしょう。

真実を追い求めた涸れることない情熱。  
太郎の暖かなぬくもりは、風につれて、いつでも空から降り注ぐことでしょう。

葬儀太郎 六十八歳

二〇〇五年（平成十七年）

十一月十七日

永眠